

地域外の人材を招致して地域力を高める「地域おこし協力隊」の制度。「うきはブランド推進隊」として、現在10人がミッションに取り組んでいます。各隊員から、最近の取組を紹介します。

うきは駅活用プランナー  
石川 亮

「ななつ星in九州」の2013年10月の運行開始から3年が経ちました。昨年は熊本地震の影響もありましたが、毎週火曜日のお昼にうきは駅に停車しています。今年も子どもたちと一緒に元氣いっぱいお出迎えを続けています。最近では子どもたちが音楽に合わせてダンスを披露しています。小さい身体を元氣いっぱい動かして楽しそうに踊る姿を見ると、みんな一緒に拍手をして笑顔になります。そんな子どもたちの姿を見ると、岡山にいる2歳の娘の姿と重なり、涙が出そうになるのをこらえながらお出迎えのお手伝いをしています。着任してもうすぐ2年になりますが、みなさまの温かい心遣いと御協力でたくさん活動をさせていただいています。本当にありがとうございます。今後、森林セラピーガイドやサッカー指導者など新たに取得した資格と、旅行の国家資格や経験を加えて、地域のためになる活動をやりたいです。



※ななつ星は、定期点検のため運休中です（8月22日から運行再開）。  
※写真IIうきは駅での歓迎風景

うきは市観光協会事務局長  
藤田 豪太郎

うきは市観光協会では自らの事業を「地域の幸せづくり活動」と位置付け、今年度の活動のテーマの一つに「交流」をあげています。私が特に力を入れているものに「都市とうきはの交流」があります。うきはは生まれ育ち、今は東京・大阪などで活躍されている方々に、うきはを応援していただくというもので、私は「うきは応援団」と呼んでいます。4月に浮羽真館高校同窓会の東京支部総会にお邪魔して、東京で御活躍中の方々にお話を伺ってきました。なかには30年以上もうきはに帰っていないという方もおられましたが、うきはを思う気持ちは人一倍強い方ばかり。「応援団」への支援を約束いただくばかりか、観光協会の活動をもっと頑張るようにと叱咤激励をいただきました。東京では7月22日に、うきは市周辺6市町共同で出展する「アンテナショップ」がオープンします。「応援団」の方と、うきはの魅力を広めていきたいと考えています。お友達など東京にお住いの方がいらっしゃいましたら、ご紹介をお願いします。この夏は、関西地区でも「うきは応援団」のお知らせも始めます。



うきは暮らしプランナー  
矢倉 誠人

うきはブランド推進隊に就任して、早くも3か月が経ちました。私の主な活動は空き家バンクの運営で、市内の空き家情報を集め、うきはは住みたいと相談に来られた方に紹介しています。そのような活動をしながら気づいたのは、「うきはに住みたい」という市外の方が想像以上に多いことです。この短い間に15件以上の相談を受けました。うきはの文化や風景、人の良さに魅力を感じている人が市外にもたくさんいるんだなと嬉しい気持ちになります。しかし、まだ空き家バンクで紹介できる物件が2軒しかないため、相談に来られた方に満足いく形で答えることができていません。そこで、最近、ポスティング活動などをして、空き家所有者の方に空き家バンクに登録していただけるようお願いをしています。まだまだ効果は出ていませんが、多くの空き家を発掘して、うきはに住みたい方に紹介できるように頑張りますので応援よろしく願いいたします。その他では、ビブリオバトル（本の書評対決）活動をしています。興味がある方はどうぞ御参加ください。



文化財保存活用プランナー  
竹熊 若葉

6月から生涯学習センターで小さなテーマ展示を始めました。うきはの歴史や文化に関する知られざる魅力を、毎月テーマを変えてお届けしていきます。第1期は「白壁の町並み」を取り上げ、吉井の町並みの原点とも言える「ハゼ蟬作り」と白壁を彩る「鍔絵（こてえ）」を紹介しました。初めてこの街を訪れたとき、その雰囲気と白壁の絵が印象に残ったからです。普段何気なく通る道も、ゆっくり歩くだけで異なる景色が見えてきます。皆様も機会があればぜひ散策されてみてください。第2期は「不屈のジャーナリスト・菊竹六誠」です。うきは市出身の20世紀を代表する新聞記者・菊竹六誠は、7月で没後80年を迎えます。その人となりを紹介していますので、生涯学習センターにお越しの際は正面玄関のショーケースを覗かれてみてください。ともすれば、歴史や文化は難しく近寄りづらいイメージがあります。少しずつ活動の幅を広げるなかで、地域の皆様、特に子どもたちに地域の歴史や文化を身近に感じて興味を持ってもらえるよう努めていきたいです。

